

市長から市民のみなさんへ

83

山陽小野田市長 白井 博文

豊魚祭が開催されました

10月5日に埴生漁港で、「埴生漁港まつり」が開催されました。今年は県漁協主催の「豊魚祭」を兼ねて行われましたが、雨まじりのあいにくの天候だったにもかかわらず、マグロの解体実演や貝汁・カニ汁の無料配布といった楽しいイベントに参加する人、お目当ての新鮮な海の幸を買い求める人で会場はごった返し、大盛況となりました。私も知事とともに、漁港の岸壁から稚魚を放流し、豊漁祈願を行いました。その際、一句ひらめきましたので、愚作ではありますがご披露させていただきます。

「ふぐひらめ 稚魚放ちたり 埴生の浦

大きく育てと 祈る豊魚祭」

山陽小野田市だけでなく、全国的に水産業をとりまく状況は厳しさを増しています。水産資源の減少、担い手不足といった課題への取組みについて、再認識した一日でもありました。



▲大好評だったカニ汁。大鍋で作られ、無料で振る舞われました。

「特定健診」を受診しましょう

今年、市内で敬老の日を迎えた100歳以上の方が28人いらっしゃいました。昨年から倍増したその数は、将来的には更に増えていくことが予想されています。かくいう私も今年、古希を迎え、いよいよ人生を総括するような年齢が近づいてきました。振り返ると、苦しいことも悲しいこともたくさんありました。そして、たどりついた人生の「ラストステージ」は楽しく安らかな

気持ちで過ごしたいと望んではいるのですが、市長という重責に就いている限りは、その願いはなかなか叶いそうにありません。市民のみなさんにおかれましては、一日でも長く、このまちで幸せな老後の日々を過ごしていただきたいと願っています。

さて、前置きが長くなりましたが、2ページ掲載の特定健診のお話です。通称、「メタボ健診」と言われるこの制度は、従来の病気を発見するための健診ではなく、「病気予備軍」の人に検査を通して警告を発し、生活改善を促すために今年からはじまったものです。すでにご案内を6月の広報でおこなったところですが、まだ受診されていない方が多くいらっしゃるようです。特に40代、50代の働き盛りの方々は、何かとご多忙とは思いますが、数十年先の健康を担保するためにも、今こそ、特定健診を受けていただきたいとこの場を借りて、再度、市民のみなさんに広く呼びかけをさせていただきます。

秋も深まってきました。先ほどお話ししたとおり、なかなか心休まる時はありませんが、そんな私の今のさやかな楽しみは、徒歩での通勤途中、川沿いの道での生き物との出会いです。大きいのから小さいのまで群れをなして泳ぐ鯉、カメ、ナマズ、そして身動きせずに獲物を狙っているサギ～時が止まっているかのような穏やかな情景に心とむ思いがします。朝夕、冷え込むとはいえ、日中はやわらかな日差しが降り注ぐ過ごしやすい日々が続いています。みなさん、それぞれの「実りの秋」を満喫されてください。

対話の日

【いずれの会場も19:00から】



11月13日(木)高砂町・光栄町自治会館

11月27日(木)ケアセンターさんよう